

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	杜のつぐみ療育園荒井園		
○保護者評価実施期間	令和8年1月13日	～	令和8年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 20名	(回答者数)	17名
○従業者評価実施期間	令和8年1月13日	～	令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月26日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個室があることで児童発達支援と放課後デイサービスの支援の区切りができています。	勉強部屋などを新たに増設し、集中できる環境設定などを行い、各課題や活動に支障がでないよう配慮をしております。	放デイでも個室が使える際には有効活用し、スペースの確保を行い、広々と使えるようにしていきます。
2	集団での関わり方などソーシャルスキルに関する支援を重視しているため、集団に適した行動が身に付けられる。	お子さまのお話をよく聞き、集団行動のとり方など本人が納得できるようなかたちで行い、次の集団行動で応用できるよう関わっております。	課題を文字などにし、視覚的に提示をして明確にすることで課題解決ができたかできなかったか、振り返りができるようなシステムを導入し、フィードバックができるようにしていきます。
3	“運動特化”などではなく5領域に基づいた専門的な療育をお子さまの特性に合わせて提供できている。	なにか一つの領域に特化するのではなく、検査バッテリーなどを使用しお子さまの状況に合わせて得意、苦手を判断した療育を提供することができております。	検査バッテリーや論文・文献などを引用し、療育の幅を広げていき、より専門的で特性にあった療育が提供できるよう研鑽を重ねていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	御意見でもありましたが、活動スペースが少し狭く、スペースを区切って利用する必要があること。	利用者様の人数が増えたことや成長に伴い体が大きくなってきたことによる物理的なスペースの占有率が向上してきたことが要因として考えられます。	児童発達支援のお子さまがいない場合には個室を開放したり、運動スペースと机や床で遊ぶスペースを分けることで、十分な運動スペースなどの確保を行っております。
2	児童発達支援や言語療育など個別対応のお子さまが多くいるため、土曜日の外出イベントの開催が行えない状況にある。	土曜日に児童発達支援を利用しているお子さまが多く、職員の人数が足りず外出イベントを開催するための安全性を確保することができないことが要因です。	利用予定を見て開催できそうな場合には積極的にイベントの開催をしていく予定であります。また児童発達支援のお子さまがいる状況でも人数制限を設けて少人数でもイベントを開催できるようにしていきます。
3	保護者様との連絡手段などが希薄でやりとりが電話などになってしまふなど方法が限定的である。	運用システムの中に保護者様との連絡ツールがないため、連絡が取れない状況にあることが要因となっております。	SNSなど連絡手段の導入を行い、利用に関する連絡のみならず、ご家庭での様子などの申し送り事項のやり取りなどができるようにしていきます。